

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学生の多様な進路希望に適切に対応するために設けたコース制の充実や職業教育導入のための方策を検討する。	→ 「コース制についての満足度調査等の独自アンケート調査の実施状況」「選択したコースと卒業後の進路の対応状況」「新入生オリエンテーションでの説明時間数やコース選択前オリエンテーションへの出席者数」「コース制についての周知実績（独自パンフレット作成の有無等）」「職業教育関連科目の有無・科目数」	B
2. 少人数教育のための演習科目を充実させる方策を検討する。	→ 「演習科目についての満足度調査項目を含むアンケート調査の実施状況」「選択必修ないし選択制の演習科目（研究演習・人文演習等）の履修率」「演習科目の効果的な再配置と新設の検討状況」「1年次配当の演習科目（基礎演習）における初年時教育の内容」「学内や他大学の演習クラスとの合同による研究演習の実施数」「新入生オリエンテーションでの説明時間数やゼミ選択前のゼミ説明会への出席者数」「演習科目についての周知実績（独自パンフレット作成の有無等）」	B
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

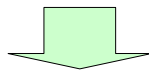
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★ 小項目0.0.1	(理念・方針目的) 1. 学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価が得られる能力の習得 2. 少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成 (現状説明) 法学部は、単なる資格試験・採用試験の受験のための教育に偏しない、社会の実相の深い洞察を根底とする教育を目指す「ソーシャル・アプローチ」という法文学部創設（1934年）以来の法学部独自の教育理念の下で、2003年度に上記2つの実施目標を明確化してきた。1については、その実現のために2003年度より導入したコース制が、導入の趣旨をより適切に実現できているかを検証し、新たに「職業教育関係科目」の導入のあり方も併せて考慮しつつ、カリキュラム等の必要な見直しを進めている。2についても、少人数の演習科目の全学年への配置や一層の多様化の方策について検討を進めている。
★ 小項目0.0.2	(現状説明) 法学部の教育理念は、学部の履修心得や大学ホームページの法学部サイト等で明確に示して大学構成員に周知し、受験生用パンフレット（全学共通「空の翼」、法学部独自パンフレット）や大学ホームページの法学部サイト等で明確に示して、社会に公表している。
★ 小項目0.0.3	(現状説明) 法学部が標榜するソーシャル・アプローチという教育理念の適切性は、社会情勢の変遷等を考慮しつつ、その実現のための具体的な内容について絶えず見直しが必要であるが、2003年度に将来の進路希望に対応できるようにコース制を導入する等、学部カリキュラムを大幅改訂したのに続いて、2012年には、さらに教育理念とその実施目標をより一層実現するために、学部カリキュラムの大幅改訂のための検討を進めている。
★ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価（1）】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	2012年度実施に向けて2つの実施目標をより適切に実現すべく、学部カリキュラムの大幅見直しを進めている。
★ 小項目0.0.2	それまで全学共通のパンフレットに教育理念を示すに留まってきたが、2010年4月に法学部独自パンフレットを作成し、これに教育理念を示し、一般入試の受験生や推薦入試の対象高校等へ配布し説明に努めている。
小項目0.0.3	2012年度実施に向けて2つの実施目標をより適切に実現すべく、学部カリキュラム改革の大幅見直しを進めている。
その他	



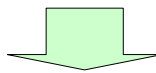
【次年度に向けた方策（1）】伸長させるための方策

小項目0.0.1	2012年度実施に向けて進めている学部カリキュラムの大幅見直し作業を引き続き精力的に行う。
★ 小項目0.0.2	教育理念を大学構成員に周知するために、学内出版物に可能な限り教育理念や実施目標を掲載し大学構成員に周知する。社会への公表方法として、法学部独自のパンフレットの配布や入試のアドミッションポリシーの周知という方法等を用いて、教育理念や実施目標の公表を促進する。
小項目0.0.3	2012年度実施に向けて進めている学部カリキュラム改革の大幅見直し作業を引き続き精力的に行う。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価（2）】改善すべき事項

小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	教育理念や実施目標も含めた学部の広報体制がまだまだ十分に確立されていない状況にある。
小項目0.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策（2）】改善方策

小項目0.0.1	
★ 小項目0.0.2	教育理念を含めた法学部の広報体制の確立のために、学部内の広報委員会において本格的な検討を進める。
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○学部の教育理念に基づくカリキュラム改革が計画的に進展しています。より充実した広報が期待されます。

【学内委員】

○設定された目標に対しては、順調に進展しています。しかし、いずれも「検討する」ことが目標となっており、検討結果に基づいた改善方策を策定し、実施することが望まれます。

○取り組みが進捗中であると判断されます。

○効果が上がっている事項の小項目0.0.及び10.0.2の記述は現状説明ではないでしょうか。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)ー総合コース「『関学』学」の履修者数

<個別的な指標>
